

脳と心臓 心と心臓

企画：金子英弘

(東京大学医学部附属病院 循環器内科/
東京大学大学院医学系研究科 先進循環器
病学講座)



HEART's Selection

心臓および循環が、単一臓器の作用として存在するだけでなく、多くの臓器と連携しながらその役割を果たしていることは広く知られています。とりわけ、心臓と腎臓が互いの機能を補完し合って生体内の恒常性を維持していること、その補完が破綻した際には、心臓も腎臓も並行して悪くなってしまう現象は、「心腎連関」として今日の循環器領域の臨床・研究において不可欠な分野となりました。このほかにも、肝臓との関係は心肝連関、そして最近では腸内細菌叢と心臓との関係も心腸連関という新たなコンセプトとして提案されています。

一方で、心臓と循環動態に大きな影響を与える脳、そして心については、心臓との連関について、まだあまり多くのことは知られていません。そこで、本号では「脳と心臓 心と心臓」というタイトルで、4名のエキスパートの先生方にご執筆いただくことができました。岸先生には、交感神経系と脳を介した多臓器連関について、藤生先生には脳・神経系を介した心臓の恒常性維持機構について、興味深い基礎研究の観点からまとめていただきました。また、河野先生には、心不全パンデミック到来を間近に控えたわが国で今後ますます重要になると思われる心不全の意思決定支援について実臨床に則した解説をいただきました。結びには、市橋先生・萩原先生から循環器疾患における抑うつ、不安、不眠などへの評価・対処法についてわかりやすくまとめていただいています。

本特集が、読者の皆様の診療や研究の一助になれば、望外の喜びです。